

## 第8回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	第8回安曇野市行政改革推進委員会
2	日 時	平成22年2月3日(水) 13時26分から15時50分まで
3	会 場	市堀金総合支所 301会議室
4	出 席 者	白澤亀内会長、浅川文彬副会長、小口憲政委員、尾台ゆみ委員、佐々木一夫委員、武井辰雄委員、花村薫委員、牛山宣久委員、加々美孝男委員
5	市側出席者	西澤行政改革推進室長、等々力室長補佐
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0 人 記者 0 人
8	会議概要作成年月日	平成22年2月12日

### 協 議 事 項 等

#### 1 会議の概要

- (1) 開 会 (浅川 副会長)
- (2) 会長あいさつ (白澤 会長)
- (3) 議 事 第2次安曇野市行財政改革大綱の素案について
- (4) その他
- (5) 閉 会 (浅川 副会長)

#### 2 審議概要

副会長：委員12名のうち、本日は9名の出席であり、安曇野市行政改革推進委員会設置条例第5条第2項の規定に基づき会議は成立していることを報告する。  
同じく、第5条第1項の規定に基づき白澤会長が議長となり議事進行を行なっていた。

##### (1) 協議事項 《第2次安曇野市行財政改革大綱の素案について》

大綱の素案中、前回の委員会で指摘された箇所を修正したので、事務局が説明する。

##### 〈基本理念案の変更について〉

「市民の視点に立ち、更なる行政経営の取り組み」

→「市民の視点に立ち、自律的・継続的な行政経営の向上を目指す」への変更について

委 員：基本理念の表現について、文章が2つ存在している。（「自律的・継続的な行政経営」と「行政経営の向上を目指す」の2つ）よって、少し違和感がある。

委 員：国語的には、「自律的・継続的な取り組みによる行政経営の向上」という表現となる。

委 員：「自律的な行政経営」と「継続的な向上」に分かれる。

会 長：「向上」を取ることでよいか。

委 員：基本理念なので、余り長くなるのは良くない。しっかりと胸に落ちるのは短い言葉である。

会 長：基本理念は、端的でわかりやすくする必要がある。ここでは、2つの文章に分けることはおかしい。

委 員：「継続的な行政経営」とは、ごく当たり前のことだ。

委 員：「市民の視点に立って、更なる意識改革のもと、全庁一丸となって行財政改革を断行する。」という意味だ。もっとシンプルにしたらどうか。要は「市民の視点に立つ」という精神で行革を進めるということだ。

委 員：「自律的・継続的な」を削除したらシンプルになる。

委 員：今まで何回も審議してきたが、理念はシンプルにして、細かい事項は、基本方針やその次のレベルで位置付けていけば良い。

会 長：では、基本理念は「市民の視点に立ち、行政経営の向上を目指す」で良いか。

委 員：すっきりするので、それで良い。

事務局：基本方針について、

1. 市民とともに進める行政運営の実現
2. 簡素で効率的な行政経営の実現
3. 市民満足度の高い行政サービスの実現 と修正した。

委 員：前回、「行政運営」と「行政経営」の違いについて説明があった。基本方針の1と2の「運営」と「経営」の違いは何か。

委 員：我々民間でいう、役員と執行役員との違いと同じことか。

委 員：経営には計画や目標がある。運営は計画に従って実行することで、「経営」と「運営」と2つが存在しても良いのでは。

委 員：経営の一部分に運営がある。

事務局：市民と協働する部分は、「行政運営」。行政が行革を進めるのは「行政経営」と解して欲しい。

委 員：市も「行政経営会議」という名称の会議を持っていると聞いている。すでに「行政経営」という表現をしているようだ。

委 員：市で、「行政運営」と「行政経営」の解釈の説明文を添付すれば良い。

委 員：その2つの言葉を使い分けていく必要があるのか。

事務局：今までの「行政運営」は、国の政策に基づいて決められた業務について、事務処理の適正さや計画どおりの予算執行などが求められていたが、これからは、「行政経営」として、民間の優れた経営理念や経営手法を積極的に取り入れながら、市民の満足度が向上するよう、成果とコストを重視した効率的で質の高い行政サービス提供のために行政活動を展開することが必要である。

ただし、市民にも理解してもらうために、基本方針中の表現は「行政経営」に統一します。

委 員：「3. 市民満足度の高い行政サービスの実現」とは、あまりにも一般的な表現であるので、この解釈中に、「経営品質の向上」の表現が入らないか。「民間企業の経営品質の概念・手法等を積極的に取り入れながら、市民の視点に立ち、更に行政サービスの質を高め、市民から信頼される行政活動を展開していく」はどうか。

会 長：そのようにしてください。

事務局：「実施計画（市民との協働体制推進）」について、変更点を説明する。

委 員：「市民価値」という表現がよいか。

事務局：「市民のための」か「市民本位の」に修正します。

事務局：「実施計画（本庁機能と総合支所機能の見直しと組織体制の確立）」について、変更点を説明する。

委 員：前回の案に較べて、柔らかな表現となってしまった。批判は覚悟のうえ、こうすれば、成果が得られると表現してもよい。行革を積極的に推進するために本庁舎が必要であれば、その旨を記載した方が良い。

委員：本庁舎建設に関しては、市の別機関に諮問してあるから、この委員会で踏み込む必要がないと思う。

会長：本庁機能を一本化にすることは、行革推進の立場から必要です。

委員：組織体制の確立だけでなく、その根本にある職員の意識改革についても触れておいても良い。

委員：総合支所の機能についても説明記述が必要です。

会長：「本庁機能と総合支所機能の見直しと組織体制の確立」については、もう少し、具体的に踏み込んだ表現にしてください。

事務局：本庁舎建設関連事業については、市本庁舎建設準備室が進めている。本庁機能が1つとなる本庁舎ができないと、現状の非効率な部分は改善されないことは事実です。ここでは、もう少し踏み込んだ表現に直します。

委員：分庁方式の非効率について、無駄な経費などを数字で表せれば市民に理解してもらえる。

会長：市の広報などにその数字は掲載されている。

事務局：実施計画の取組項目の表題を「具体的な取組み」から「実施計画1～」に変更した。

委員：実施計画「収税等収納率の向上」で、滞納が18.00%の意味は何か？

事務局：過年度分の収納率を示しており、平成18年度の目標は、17.66%であったし、先の24年度は、18.50%を目標としている。

委員：実施計画「庁舎単位の環境保全計画の推進」で、国が20何%も目標値としているのに、1%の目標でよいのか。

事務局：1%とは、各庁舎内でのごみ減量など前年度実績に較べての削減のための目標数値です。市は環境基本計画を策定しており、行革の本取組みと別に環境保全を推進しています。

委員：現在の分庁方式は、非効率だ。市民の課題にスムーズに対応するには、本庁の集約が必要だ。組織の最適化を図って欲しい

委員：何のための市の行政改革なのか、大綱の表現が弱く感じる。行革が進めば市民サービスは低下すると思う。「これからは、行政と市民が役割を分担していく」だけでは理解しにくい。よって、大綱中の表現がやや乏しいので、行革のメリットがどこにあるのかを市長への答申時に意見として入れることを考慮して欲しい。

委員：市は、一般的な表現として「地方分権に対応した足腰の強い自治体として自立するため、行政改革を進めてきた。」と行革の必要性とこれまでの経過は、大綱の序文に記載されてはいる。市の行革の目指す姿を、その見出しに1行でもよいから加入すれば良い。できれば、行革を強く進めるといふ攻めの部分が欲しい。

会長：ほぼ大綱案ができてきた。他に意見なければ、本日の委員会意見を整理したうえで、市長に答申したい。

## (2)その他

- ・次回の委員会日程について確認する。

## 閉会

副会長のあいさつで閉会となる。